

JST、中国からの招へい1万人記念セレモニーも さくらサイエンスプラン5周年シンポジウム開催

2014年にスタートした「さくらサイエンスプラン」が5周年を迎え、科学技術振興機構(JST)は11月11日、東京大学弥生講堂一条ホールで「さくらサイエンスプラン5周年シンポジウム」を開催した。

文部科学省やフリオ・フィオル駐日チリ大使をはじめとする各国大使館関係者、海外の送し機関と日本の受入れ機関の担当者、さくらサイエンスクラブ(同窓会組織)会員で再来日中の人など約360人が一堂に会し、これまでの5年間を振り返り、成果と課題を確認して、未来に向けたビジョンが描かれる場となった。

開会に当たり、JST中国総合研究・さくらサイエンスセンターの黒木慎一センター長からは「さくらサイエンスでは事業開始から全体で3万人、中国のみで1万人を超える招へいが実現し、今後も益々の発展が期待されている。本日のシンポジウムでは5年間の活動を振り返り、改善すべき点、推進すべき点を明らかにして、今後の事業展開に積極的に反映させたい」と挨拶があった。

シンポジウムは2部構成で、第1部は成果発表会として行われ、さくらサイエンスの一



有馬朗人センター長(中央)と各国からの参加者

般公募プログラムの受入れ機関の代表者や受入れ責任者5人(宮崎大学、立命館小学校・中学校・高校、産業技術総合研究所、(株)堀場製作所、一般社団法人ときの羽根)、また海外の送し機関の著名な大学教授や招へい者の選出に関わる組織の担当者など5人(中国・科学技術部、タイ・チュラロンコン大学、インド工科大学、ベトナム教育訓練省、スリランカ国立科学財団)の計10人から、さくらサイエンスプランの支援によるプログラムを活用した事例や取組みについて成果発表があった。

受入れ機関からは「海外から生徒を招くことは日本の生徒やスタッフにも大きなメリット」「海外に行かずに出来る国際交流」「オープンイノベーションのプラットフォームとして有効活用」「海外から日本への受入れから始まり、双方向の交流に発展」などの内容について発表があった。

また、送し機関からは「グローバルなプログラムの一部としてさくらサイエンスを活用」「訪日することで遠い存在だった日本人とコモン・フィロソフィーを構築」「さくらサイエンスにより自国の若者を刺激して、科学技術への関心を高めるきっかけとなっている」などといった発表があった。

そして第1部の総括として、さくらサイエンスプラン一般公募プログラムの選考委員長である、東京都市大学の三木千壽学長から



「次世代の人材育成のため、さくらサイエンスプログラムは大きな役割を果たしている。今後の変化のために、対象国の拡大、プログラムの内容の検討・充実、産業界との親和性向上、日本の若



東京都市大学長の三木千壽氏
「課題は多いが取り組んでいきた」との話があった。シンポジウムの前に、中国からの招へいがまさ

【第1部】成果発表会

①はじめに

黒木慎一 (JST中国総合研究・さくらサイエンスセンター副センター長)

② セッション

三澤尚明 (宮崎大学産業動物防疫リサーチセンター センター長/教授)

堀江未来 (立命館小学校・中学校・高等学校 代表校長)

青柳昌宏 (産業技術総合研究所 TTA推進センター連携推進ユニット長)

周妙鳳 (桐畑製薬所 営業本部海外営業部 担当副部長)

久田治子 (一般社団法人ときの羽根 代表理事)

姜小平 (中国・科学技術部 一級調研員)

アーティワン・ジョティブリック (タイ・チュラロンコン大学工学部 教授)

デュライ・スンダール (インド工科大学ゼリー校 教授)

グエン・ティ・チュイ・ハ (ベトナム教育訓練省 国際協力局 主任)

J.G. シャンタ・シリ (スリランカ国立科学財団 国際リエゾン部長)

③ 総括

三木千壽 (東京都市大学学長)

【第2部】さくらサイエンス5周年全体会議

① 主催者挨拶 濱口道成 (JST理事長)

② 来賓挨拶 文部科学大臣政務官 青山周平氏

③ 各国大使館挨拶

中華人民共和国駐日大使館、インド共和国駐日大使館

④ 基調講演

毛利衛 (日本科学未来館 館長)

郭東明 (中国・大連理工大学 学長)

岸輝雄 (外務大臣科学技術顧問)

⑤ パネルディスカッション

馬場錬成 (21世紀構想研究会 理事長) ※モデレーター

菱山豊 (文部科学省 科学技術・学術政策局長)

藤嶋昭 (東京理科大学 榮譽教授)

大友克之 (朝日大学 学長)

黄鴻堅 (麻布大学獣医学部 教授)

ジテンダー・チュー (インド科学教育研究大学ブネー校 准教授) [同窓会代表]

徐依馨 (中国・大連理工大学外国語学院 学生) [同窓会代表]

⑥ 総括報告

沖村憲樹 (JST中国総合研究・さくらサイエンスセンター上席フェロー)

⑦ 閉会挨拶

有馬朗人 (JST中国総合研究・さくらサイエンスセンター長)



中国からの招へい1万人セレモニー



300名以上が参加したシンポジウム会場

に1万人目となる朝日大学が招へいした北京大学のグループが来日。当日も会場に招かれているとのアナウンスがあり、そのことを記

念するセレモニーを行うため、全員が壇上上がった。JST中国総合研究・さくらサイエンスセンターの有馬朗人センター長(元文部大臣)からグループの代表者に記念品と証書が授与され、有馬センター長がお祝いの言葉を述べた。第2部ではJSTの濱口道成理事長、文部科学大臣政務官の青山周平氏、各国大使館関係者からの挨拶のあと、日本科学未来館の毛利衛館長、中国・大連理工大学の郭東明学長、外務大臣科学技術顧問の岸輝雄氏からの基調講演、その後、パネルディスカッションが行われた。その内容については次号で詳述する。